



SFP Auto-Detect および Auto-Failover

Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ (ISR) には、銅線ケーブルとファイバケーブルの同時接続をサポートする Front Panel Gigabit Ethernet (FPGE) ポートがあります。ネットワークがダウンした場合に、フェールオーバー冗長性を保つようメディアを設定できます。この機能は、Cisco ISR プラットフォームでのみサポートされます。

この章は、次の項で構成されています。

- [Auto-Detect のイネーブル化 \(1 ページ\)](#)

Auto-Detect のイネーブル化

メディア タイプが設定されていない場合、デフォルトで Auto-Detect 機能がイネーブルになります。Auto-Detect 機能は、接続されているメディアを自動的に検出してリンクアップします。両方のメディアが接続されている場合、最初に起動したメディアがリンクされます。デフォルトでは、FPGE ポートのメディア タイプは auto-select に設定されます。ユーザーは FPGE インターフェイスで **media-type rj45/sfp** コマンドを使用して、メディアタイプ設定を RJ-45 または SFP に上書きできます。また、**no media-type** コマンドが設定されると、メディアタイプ設定が「Auto-select」モードに戻ります。Auto-Detect 機能をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **no media-type** コマンドを使用できます。

Auto-Detect の設定

Auto-Detect 機能は、前面パネルの Gige ポートでデフォルトでイネーブルに設定されています。「media-type auto-select」または「no media-type」を設定することで、これがイネーブルになります。Auto-Detect を設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface gigabitethernet {slot | bay | port}**
3. **media-type auto-select**
4. **End**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface gigabitethernet {slot bay port} 例： Router(config)# interface gigabitethernet slot/port	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	media-type auto-select 例： Router(config-if)# media-type auto-select	auto-select モードでは、接続されている任意のコネクタが使用されます。次のオプションがあります。 • rj45 : RJ45 コネクタを使用します。 • sfp : SFP コネクタを使用します。
ステップ 4	End 例： Router(config-if)#end	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

例

次に、デフォルトの設定の例を示します。「no media-type」が選択されている場合は show running configuration によりメディア タイプが表示されません。

```
Router(config)# show running interface gigabitethernet 0/0/0
Building configuration...

Current configuration : 71 bytes
!
interface GigabitEthernet0/0/0
  no ip address
  negotiation auto
end
```

プライマリおよびセカンダリメディアの設定

プライマリメディアがダウンしていることを示す通知をルータが受け取ると、セカンダリフェールオーバーメディアがイネーブルになります。スイッチオーバー後にプライマリメディアが復旧しても、それはプライマリメディアに切り替わりません。**shut** コマンドまたは **no shut** コマンドを使用するか、またはモジュールをリロードして、メディアタイプをプライマリ（優先）メディアに戻す必要があります。

GE-SFP ポートでプライマリまたはセカンダリ フェールオーバー メディアを割り当てるには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface gigabitethernet {slot | port}**
3. **media-type rj45 autofailover**
4. **End**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface gigabitethernet {slot port} 例： Router(config)# interface gigabitethernet slot/port	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	media-type rj45 autofailover 例： Router(config-if)# media-type rj45 autofailover	自動フェールオーバーのプライマリ メディアとして rj45 を指定してポートを設定します。
ステップ 4	End 例： Router(config-if)#end	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

例

次に、プライマリ設定の例を示します。

```
Router(config)# show running interface gigabitethernet 0/0/0
Building configuration...
```

```
Current configuration : 102 bytes
!
interface GigabitEthernet0/0/0
 no ip address
 media-type rj45 auto-failover
 negotiation auto
end
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。